

2016年、附属幼稚園は創立140周年を迎えます

東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)開校の翌1876(明治9)年より、日本初の官立幼稚園として附属幼稚園の歴史が始まりました。保育内容と方法は、ドイツのフレーベルの教育に倣っていましたが、次第に我が国の実情にあうように工夫されていきました。また、多くの保育思想のリーダーに導かれ、日本の保育研究、実践研究の中心的な役割を担ってきました。

関東大震災による園舎の焼失や戦災による休園を乗り越え、2016(平成28)年には創立140周年を迎えます。本展示では、附属幼稚園140年のあゆみと本学とのつながりをご紹介します。この機会に、ぜひお越し下さい。

関連イベント

- ・展示解説:1月22日(金)、23日(土) 14:00～(20分程度)
集合場所:歴史資料館2(136室)
- ・特別イベント:附属幼稚園の歴史(9月開催予定)



恩物(お茶の水女子大学附属図書館所蔵)



幼稚園果戯劇之圖(複製)



附属幼稚園園庭『新校舎に学ぶ』(1936年)より



附属幼稚園の藤棚
『附属幼稚園 創立130周年記念絵葉書』(2006年)より

お問い合わせ先
お茶の水女子大学 図書・情報課 歴史資料館担当
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
E-mail: shiryo@cc.ocha.ac.jp
TEL: 03-5978-5567(月～金 10時～17時)

お茶の水女子大学 デジタルアーカイブズ
http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji_ocha140/

附属幼稚園 創立百四十周年 記念特別展 — 附属幼稚園と幼児教育の百四十年 —

会期:平成28年1月19日(火)～31日(日)
12:30～16:30

会場:お茶の水女子大学歴史資料館
(大学本館121・136室)

国立大学法人
お茶の水女子大学

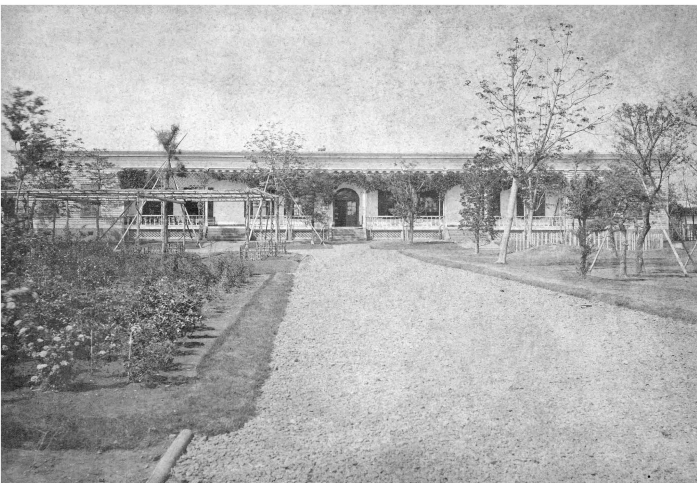
お茶の水女子大学
附属幼稚園

主催:お茶の水女子大学歴史資料館
共催:お茶の水女子大学附属幼稚園

入場無料／会期中無休

1. 幼稚園のはじまり

1876(明治9)年11月、東京女子師範学校附属幼稚園開設が布達され、16日に開園式を挙行した。これが日本における官立幼稚園のはじまりである。初代監事(現在の園長)は関信三(1843-1880)、主任保母 松野クララ(1853-1931)、日本人保母 近藤濱(1839-1912)、豊田英雄(1845-1941)が就任し、75人の園児が入園した。



最初の園舎

2. 附属幼稚園と教育

開園当初の保育内容と方法は、ドイツのフレーベルの教育に倣っていたため、我国の保育に合うよう、工夫がされた。恩物の材料の変更や工夫も、保育にたずさわる保母たちによってなされた。

また唱歌は、当初雅楽課伶人が作曲したものを「保育唱歌」として用いていた。歌詞を歌いやすく工夫したのもまた、保育にたずさわる保母たちであった。また後には、西洋音階の唱歌の指導が行われるようになった。

3. 附属幼稚園と保母養成

1878(明治11) 年、東京女子師範学校に保母練習科が置かれ、給費生5名自費生6名が入学して保母(保育者)養成の開始となった。その後一時廃止されたが、1896年に再設され、附属幼稚園主事(園長)を中心とした指導体制によって人材を送り出した。

1906年に保育実習科となり、お茶の水女子大学設置後は幼稚園教員臨時養成課程となったが、1970年の養成課程廃止に至るまで、各地で活躍する幼稚園教員を輩出した。



豊田英雄筆か「幼稚園唱歌」
(お茶の水女子大学附属図書館所蔵)

4. 倉橋惣三と附属幼稚園

倉橋惣三は、1917(大正6)年初めて附属幼稚園主事に就任してから、欧米留学の時期などをはさみ、三度に渡り計23年間主事を務めた。倉橋は附属幼稚園で保育改革をすすめ、理論・実践の両面から子どもに即した日本の保育の基礎を築いた。



「倉橋惣三先生と園児」
『卒業記念写真帖『於もひ出』(1939年3月、家事科)』より

5. 震災・戦争から戦後へ

1923(大正12)年の関東大震災で、東京女子高等師範学校の敷地が全焼し、幼稚園園舎もまた焼失した。仮園舎での保育を経て、1933(昭和8)年には大塚の園舎で保育が開始された。

太平洋戦争中の1945年3月、附属幼稚園は休園となる。

戦後11月、保育開始式が行われて保育が再開された。1948年には夏期講習会が再開されている。また附属小学校と「教育実習指導研究会」を共催した(1952-55まで合同開催、53年より単独開催)。1968年からは公開保育がはじまった。

6. 附属幼稚園の現在

2008(平成20)年、附属幼稚園園舎は登録有形文化財に指定された。歴史的価値のある園舎・園庭環境の中で、主体的に遊んでいる子どもたちの姿を広く公開していくこと、保育実践の質の向上を目指す研究を発信していくことが附属幼稚園の使命であり、年2回の公開保育を中心に、国内外からの参観者を受け入れている。



現在の園長室

1840	フレーベルがキンダーガルテンと命名(幼稚園のはじまり)	1880	小西信八、監事就任 保母練習科廃止	1890	高等師範学校女子部を分離、女子高等師範学校と称する 高等師範学校附属幼稚園は本科附属	1908	奈良女子高等師範学校設置に伴い、女子高等師範学校を東京女子高等師範学校と改称	1936	落成記念式典を開催 3月、附属幼稚園閉鎖	1970	幼稚園教員臨時教員養成課程廃止(最後の卒業生)
1872	学制を公布	1881	附属幼稚園保育課程改訂					1945	11月、保育再開式	1976	附属幼稚園、創立百周年記念式典挙行
1875	7月、幼稚園開設伺、不許可 9月、再伺を提出、許可される 11月、東京女子師範学校開校式挙行	1882	附属高等女学校を設置 附属小学校を附属女児小学校と改称	1891	中村五六、主事に就任 附属幼稚園規則	1912	附属幼稚園本園を第一部、分室を第二部とする	1946	附属幼稚園、第一部、第二部の編成を廃止	1980	附属学校園は、文教育学部附属から大学附属となる
1876	11月、附属幼稚園開園式挙行(日本で最初の官立幼稚園) 初代監事 関信三	1884	附属幼稚園規則改訂	1896	フレール会発足 保母練習科再設置	1917	倉橋惣三、主事に就任	1948	夏期講習会再開	2004	国立大学法人お茶の水女子大学に移行
1877	東京女子師範学校に附属小学校設置	1885	東京女子師範学校は東京師範学校に合併され、東京師範学校女子部となる 附属校園は東京師範学校附属	1892	附属幼稚園分室(簡易幼稚園)設置	1918	フレール会、日本幼稚園協会に改称	1949	4月、3年保育を再開 5月、お茶の水女子大学設置	2006	附属幼稚園、創立百三十周年記念式典を挙行
1878	保母練習科設置	1886	東京師範学校は高等師範学校となり、本校はその女子部となる 附属校園は高等師範学校附属	1896	保母練習科目再設置 『婦人と子ども』発刊(現『幼児の教育』)	1919	藤井利誉、主事に就任	1952	附属学校園は大学文教育学部附属となる	2008	附属幼稚園園舎、大学本館、徽音堂、大学正門が登録有形文化財として登録
				1901	保育実習科設置	1922	倉橋惣三、主事に就任	1968	公開保育がはじまる	2016	附属幼稚園、創立140年
				1906		1923	関東大震災で校舎焼失				
						1924	堀七蔵、主事に就任				
						1930	倉橋惣三、主事に就任				
						1931	附属幼稚園竣工				